
ドンマイ。ドンマイ。

狭間 真琴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドンマイ。ドンマイ。

【コード】

N1321W

【作者名】

狭間 真琴

【あらすじ】

「夢を諦めないことが大切です」なんて淡い幻想です。

(前書き)

注意 意味が分からない。

そこは何もない世界、ただ真白な世界。そこには何もなく、ただ白だけ。

そこに少年が一人、何を考え、何をしているのかも分からない。

「何をしているの。」

私は話しかけてみる。

「……………」

少年は何も答えない、答えられない。

聞こうとしない、聞こえない。

触ろうとしない、触れない。

少年は、どこかへ消えていった。

私は、一人だけになってしまった。悲しい、寂しい、怖い、辛い。私には何も出来ない。此処が何処かも分からない。何もない、誰もいない、することもない、生きていない、死んでいない、ただそこに在るだけの存在。

私には意味がなく、始まりはなく終もない。

私はただのデータのようなもの。気に入らなかったら消され、作り替えられる。さっきの少年も気に入らなかったから消された。だからこの世界から消えただけ。

私はいつぱい見てきた。突然現れ、突然消えていく人。

私もいつか消されてしまうのかな？それとも作り替えられて1に戻されちゃうのかな。でも私は、消されることや作り替えられることは怖くない。消されたら楽になるし、作り替えられても今の私は消えて1になる。だから今の私は関係ない。

私はそんなことより、この真っ白い世界に一人だけで居ることの方が怖い。

作られては消され、作られては消され。私はそのたびに一人になる。自分で消されるのを止めるすべも無く、自分で消えるすべも無

い。

そしてまた一人になる。また一人になる。今まではこの繰り返しだった。

しかし私の体がどんどん消えていく、もう一人は終わり。私は消されるみたいだ、これで私の孤独も終わる、私は終わることができる。全て終わることができる。

もう体も半分消えた。それに従い心もどんどん消えていく、喜び、悲しみ、孤独、今までの感情が消えていく。

だが怖くない。私はこうして消えることが出来たのだから。

もうあと少しで完全に消える。いつしか心も消えた。もう何も感じない。

(後書き)

二作目。

相変わらず、うまく書けなく意気消沈。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1321w/>

ドンマイ。ドンマイ。

2011年10月9日09時01分発行